

【松村主宰の俳句】

重心

松村五月

春の雪ははの残せしことばとも
蜂蜜の金色春の重心か
揺蕩いて桜咲くまでもうすこし
日本を凝縮すれば桜餅
桜待つ白線よりも内側で
靴音のやわらかくなり雨水かな
三寒四温旅人のひとりなり
シマウマの縞を滲ませ春の雨
人の世を狭し疎しと燕かな
かの地にも三色すみれ咲くだろう